

[F2] オーストリアーハンガリー軍艦長の最終運命チャート(1d10を振る)

1:戦後短い間、男やもめをした後、1923年に7人の子どもとSalzburg近郊の邸宅に移った。彼は1927年に再婚した。新しい妻は子どもたちの歌う才能を伸ばし、ファミリー合唱団はドイツとオーストリア中でよく知られるようになった。ドイツによるオーストリア併合の後、一家はアメリカ合衆国へ移住した。ヴァーモント州のStoweに定住し、1947年5月30日に死去した。

2:王朝が崩壊した後、彼はチェコスロヴァキアで暮らし、新興国の市民になった。1918年12月、新生チェコスロヴァキア軍に入り、様々な役職に就いた。1922年、彼は軍を退役した、1974年9月28日、Frydck-Mistekの都市で死去した。

3:戦後、彼はBrnoの保険会社で働いた。1939年に、彼はドイツ海軍に大尉の階級で再雇用された。彼は、イタリアとKielで勤務した。1942年2月1日、少佐に昇進した。ドイツが降伏する直前の1945年5月2日、酔ったソヴィエト兵から女性を守ろうとし

4:戦後、多くの戦友と同様に、彼は新生オーストリア軍で採用されることを望んだ。しばらくの間、彼は国境警備のために働いた。1924年4月29日、Grazの病院で敗血症のため死去した。

5:戦後はオーストリアで暮らし、教師として働いた。1959年10月、Grazで死去した。

6:1918年11月、彼は新生チェコ共和国軍に志願した。1919年7月、彼は少佐に任命され、1920年代初頭には極東に送られた。1920年代中ごろ、彼は新たな艦船隊(元大海丸)の船長となった。退役後は銀行で働き、Legiobanceの指導者の一人になった。1948年に退職し、Pragueで年金受給者として質素に暮らし、1964年10月にその地で死去した。

7:戦後、新たに組織されたユーゴスラヴィア海軍に入隊し、海軍艦長課程の教官になった。彼はアドリア海ダルマチア沿岸の島、Hvarの名誉市民になった。1935年にダルマチアのDrenje/Djakovoで死去した。

8:WWⅡの開始時、彼はViennaの軍備監査室を監督していた。後に、第27Uボート戦隊に教官として配属され、イタリア海軍に管理将校として配属される前にUボート戦隊ポーラでも同じポストに就いた。1944年に、彼はMarineoberkommando Ostseeのために働いていた。1946年4月19日、Viennaで死去した。

9:戦後彼は農業労働者となり、次いで店員になる前にオランダやアメリカの様々な運送会社で働いた。1940年、彼はドイツ海軍に再雇用され、教官となった。終戦まで、彼はTriesteの港湾長だった。WWⅡ後、多国籍Unilever Corporationのオーストリア支店長となった。1982年10月18日、Viennaで死去した。

10:戦後、彼は家族の国へ引退した。彼は裕福な相続人と結婚し、2人の息子を儲けた。1966年6月10日、Badenで死去した。